

「われわれはどこから来たのか われわれは何者か われわれはどこへ行くのか」。印象派画家、ポール・ゴーギャンが19世紀末に南太平洋のタヒチで描いた代表作だ。タヒチの人々を

モデルに哲学的な題名が印象深い◆「日本人はどこから来たのか 何者か」とDNA解析による日本人の源流探しが熱を帯びている。最新の研究では、縄文時代に日本列島に暮らしていた人々の祖先は東南アジアの可能性が高いとの結果が出た◆では山陰の人々のルーツはどこなのか。鳥取市青谷町の青谷上寺地遺跡かみじちから出土した弥生時代後期（1～2世紀）の大量の人骨をDNA解析した結果、ほとんどが朝鮮半島や中国大陆からの渡来系だったことが分かった◆今回は母親からしか受け継がれない細胞内のミトコンドリアのDNA調査だった。人骨に母系の血縁関係はなく、村人ではない可能性もあるという。人骨には殺傷痕のあるものも含まれ、謎は深まる。想像をたくましくすると、舟で交易する人たちで、青谷で何らかの争いがあったのか◆最後の問い。「日本人はどこへ行くのか」。人口減に伴う働き手確保のため、外国人労働者の受け入れ拡大が議論されている。実質の移民政策との指摘も。島国でほぼ一つにまとまった民族の日本は将来、多民族に大きく変化する予感がする。（雲）